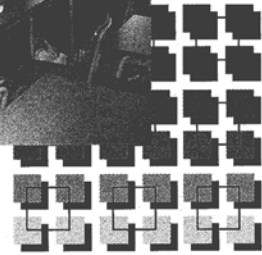
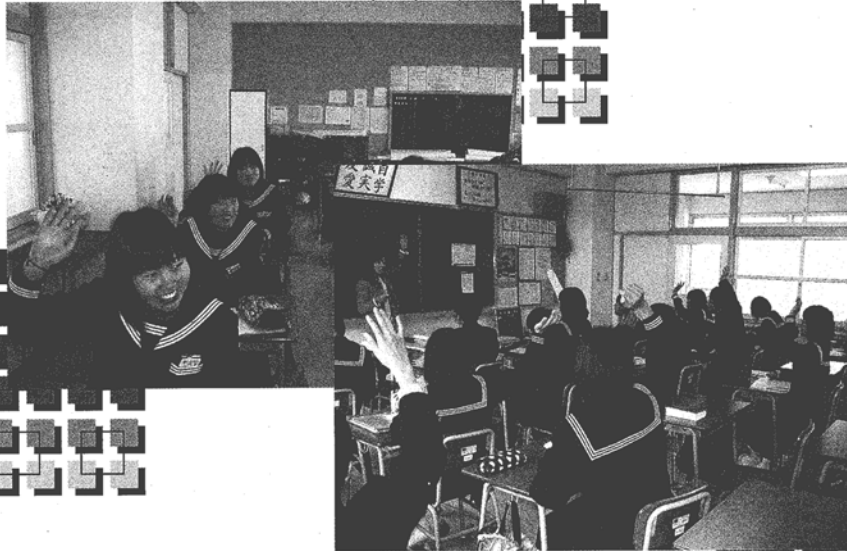
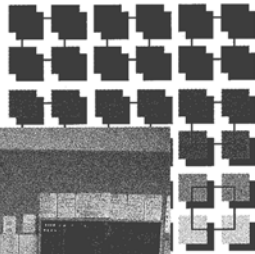


# 少人数指導の手引き (中学校編)



平成 15 年 3 月

岡山県教育委員会



# きめ細かな指導の充実と 確かな学力の育成を目指して

平成13年度から、基礎学力の向上ときめ細かな指導を目指して、第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画がスタートしました。これを受けて、岡山県でも平成13年度から、少人数指導のための教員の加配を開始し、少人数指導の充実に向けた様々な取り組みが始まっています。



## 少人数指導のねらい

少人数の集団編成による学習指導（少人数指導）を推進することによって、児童生徒の興味・関心、理解や習熟の程度などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、確かな学力を育成する。



## 目 次

はじめに 少人数指導によって生まれる新たな指導	1
第1章 少人数指導を効果的に進めるための学習集団編成	3
① 学習指導の考え方	
② 具体的な学習集団の編成方法	
第2章 少人数指導を効果的に進めるための指導方法	5
① 少人数の学習集団だからできる指導	
② 発展的な学習と補充的な学習の基本的な考え方	
③ 評価の工夫	
第3章 少人数指導を効果的に進めるための指導体制	7
① 学校全体の共通理解と協力体制	
② 教師の個性を生かす教科内連携	
第4章 少人数指導実施上のQ&A	8
第5章 少人数指導の実践事例（国語・数学・理科・外国語）	13

## はじめに 少人数指導によって生まれる新たな指導



### 少人数指導が導入された背景

2002年4月から「自ら学び、自ら考える力の育成や基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること」などをねらいとした新学習指導要領に基づく教育が全面実施されました。

今、社会の急激な変化に合わせ、教育も大きな変革期を迎えています。学習指導要領の最低基準としての性格が明確にされ、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能となり、発展的な学習や補足的な学習による個に応じた指導の充実を図る必要性も出てきました。

学習指導要領の全面実施に先立つ2001年3月末、公立義務諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律、いわゆる義務標準法の一部改正が行われました。それに合わせ、「小学校においては国語・算数・理科、中学校においては英語・数学・理科で少人数授業を行うなど、教科等の特性に応じてきめ細かな指導を行う学校の具体の取り組みに対する支援」を内容の一つとした第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画(2001～2005年度)がスタートし、少人数の学習集団編成による少人数指導が全国で行われるようになりました。

ここでいうところの少人数集団は、学級における生活集団ではなく、特別に意図的かつ計画的に形成される学習集団を指します。教科指導において意図的・計画的に形成される集団編成を行う最大の目的は、学習目標の達成です。つまり、すべての児童生徒をある基準に到達させるために少人数の学習集団編成を行い、指導しようというもののなのです。



### 少人数指導の成果は地道な実践から生まれる

「少人数指導になると、指導は楽になる。」といった声を聞くことがあります。果たして、そうでしょうか。

かつて私が小学校教員をしていたとき、16人の少人数学級を担当したことがあります。その時、算数科において一人一人の学習の成立を目指し、徹底して個に応じた指導を行いました。事前には、教材分析、教材解釈、教材開発とともに児童の発達、学力、学習スタイルの理解を行い、授業では、課題理解、問題解決のための思考や操作活動、形成的評価、発展や応用まで個に応じた指導を行ったのです。

#### 【少人数指導の6過程】

1. 児童・生徒理解、実態把握
2. 学習コースの設定
3. 少人数学習集団編成
4. 教材開発、単元構成、評価計画
5. 授業実践（個に応じた指導）
6. 到達度評価

その結果、ほぼ全員が授業時間内にはじめに定めた評価規準に到達することができましたし、着実に学力を向上させていることを実感しました。この個に応じた指導は、少人数学級であったからこそできたのですが、かなりの労力を要し、授業後の労力は以前の比ではありませんでした。

このことからもお分かりいただけるように、一つの学習集団の人数が少なければ必ず子どもの学力が向上するのではなく、教師が少人数のよさを生かし、真に一人一人に応じた指導をするかどうかということが問題なのです。

少人数指導によって生まれる新たな指導とは、ひと言で言えば「個に応じた指導」です。そのためにはまず、子ども一人一人の能力・適性、興味・関心、行動の体系等の十分な把握を行わなければなりません。それとともに、各学校の人的・物的環境も考慮した指導体制を整え、活性化を図る必要があります。また、指導方法の工夫による効果的な指導も重要です。一斉指導・グループ別指導・個別指導等の学習形態に加え、理解や習熟の程度、興味・関心等に応じた課題や指導を工夫することも大切なことです。その他、指導の効果を求め、教師の得意分野を生かした教科担任制の導入や交換授業なども考えられます。



## 少人数指導の実践・研究を進め、確かな成果を示そう

現在、少人数指導は全国的に広がっており、研究も進んできています。文部科学省の調査によれば、習熟度別の少人数指導に取り組んでいる学校も増えてきていますが、相対的に見れば、機械的に分割した学習集団編成で少人数指導を実施している時間数が多いと考えられます。今後一層、確かな学力の向上を期待するならば、習熟度別の少人数指導を実施する時間数をさらに増やしていく必要があることは誰もが認めるところです。

この「少人数指導の手引き」は、少人数指導を効果的に進めるポイントとなることをできる限り分かりやすく説明しています。是非、参考にさせていただき、それぞれの学校において少人数指導の充実を図るための一助となることを願っています。

少人数指導は、教育上の必要性から生まれたものであり、「分かる授業」「楽しい授業」を実現する指導として、今、最も注目されています。そのよさが広く保護者にも理解されるためには、各学校において指導法の研究を行い、真に一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図るとともに、その成果を学校通信や懇談会などで知らせたり、積極的に授業公開したりすることが大切です。

今、現場の先生方には、地道な少人数指導への取り組みが求められています。

2003年3月

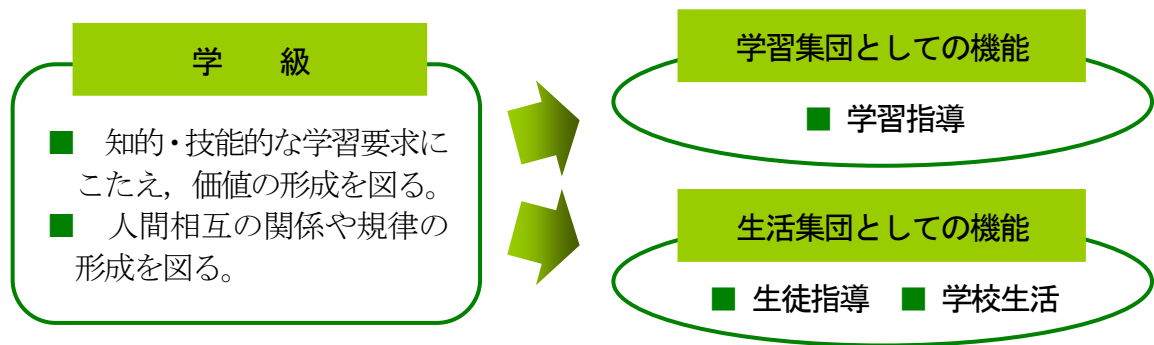
少人数指導研究委員会 顧問

ノートルダム清心女子大学 山本 博和

# 第1章 少人数指導を効果的に進めるための学習集団編成

## 1 学習集団の考え方

「教職員配置の在り方等に関する調査協力者会議」は、これまでの一元的な学級のとらえ方を見直し、生徒指導や学校生活の場としての「生活集団」の機能と、学習指導の場としての「学習集団」の機能に分けて考える必要性を指摘しています。



少人数指導を効果的に行うためには、学びの集団の人数という量的な側面だけでなく、生徒一人一人が意欲的に楽しく学び、その学習のねらいを達成するためにはどのようにすればよいかといった学びの質を重視した学習集団を編成することが大切です。

## 2 具体的な学習集団の編成方法

学習集団の編成方法として、次の三つが考えられます。分け方も1学級－2集団、2学級－3集団、全学年－複数集団など多様に考えられます。第4章のQ1も参考にしてください。

- (1) 理解や習熟の程度に応じた学習集団
- (2) 興味・関心に応じた学習集団
- (3) 機械的に分割した学習集団

### (1) 理解や習熟の程度に応じた学習集団

一般に「習熟度別」と言われる学習集団です。生徒は様々な個性を持っています。各教科の学習についても、得意だけど力を伸ばせていない生徒、苦手だけど努力を重ねて力を付けている生徒と様々です。事前に診断テストを行い、現時点での学習の習熟度を評価して学習集団を編成します。その意味で「能力別」の学習集団とは異なります。

この編成方法には、次のようなよさがあります。

- 各学習集団内の個人差を小さくできるため、生徒に応じた教材・速度で学習を進めやすい。そのため、個に応じた指導を充実させることができ、大きな学習効果が期待できる。
- グループで学習を進めるなど、生徒が主体的に進める学習を設定しやすい。
- コース選択をすることで、生徒の学習に対する自己評価能力を高めることができる。



習熟度別指導では、生徒や保護者が不安を持つことが心配されています。既に実施している学校は、生徒や保護者へのガイダンスを充実させ、具体的な成果を示すことで、理解を得ています。また、診断テストの結果など客観的な判断材料を提供し、生徒と保護者の希望により学習集団を編成している場合が多いようです。必要があれば教師は個別に助言を行います。生徒の成長や意欲の継続を考えて、定期的に学習集団を組み替えるよう計画します。学年の最初は機械的に分割した学習集団で指導し、生徒が中学校の学習や学級に慣れてから習熟度別指導を行うなどの配慮も必要です。なお、習熟度別指導については、第4章のQ9～11、第5章の実践事例（数学、理科、英語）も参考にしてください。

## (2) 興味・関心に応じた学習集団

興味・関心に応じた学習集団の編成は、これまでも様々な教科の学習に取り入れられ、効果を上げています。この学習集団の編成方法には、次のようなよさがあります。

- 生徒の興味・関心が高く、学習を深めやすい。
- グループで学習を進めるなど、生徒が主体的に進める学習を設定しやすい。
- 指導内容や評価の共通理解をすれば、指導方法についての教師の裁量が多くなる。

この学習集団による学習では、単元の後半やまとめで、それまでの学習を活用する学習が考えられます。また、単元の中心的な課題を生徒各自やグループごとに追究していくような学習が考えられます。教師は、生徒の高い学習意欲を生かすよう、教材や学習内容を工夫し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする必要があります。なお、興味・関心別の学習については、第5章の実践事例（国語、数学）を参考にしてください。

## (3) 機械的に分割した学習集団

出席番号の偶数奇数などで学級を機械的に分割し、各集団間の差異が許容範囲であればそのまま学習集団とする方法です。この編成方法には次のようなよさがあります。

- 短時間で学習集団を編成の手間が少ない。
- 少人数指導の学習集団を複数教科で共通にすると、時間割の作成や変更がしやすい。  
(1学級2学習集団の場合、Aグループは数学、Bグループは英語のような組合せが可能)
- 教師同士が同じ教材・教具を使用できるなど互いに協力しやすい。

少人数指導を導入する学校の多くが、最初はこの学習集団を編成しています。編成が簡単で生徒や保護者の抵抗感が少なく、教師も生徒も個別指導の充実を実感できる方法です。学年始めの生徒同士や教師と生徒の人間関係が十分でないときにも安心して指導できる方法です。しかし、次第に学習効果が低下することが指摘されています。説明中心の一斉指導を極力減らし、個別指導を充実させる工夫をすることが大切です。

具体的には、準備が大変で40人では実施しにくい教材を使う授業、作業的・体験的な授業を積極的に行うことが考えられます。また、生徒の発表、演習、練習の回数と時間を増やすことも考えられます。少人数だからきめ細かい指導ができるのではなく、きめ細かい指導ができるような授業形態や指導方法を工夫するから、効果的な少人数指導が実施できるのです。

## 第2章 少人数指導を効果的に進めるための指導方法

### 1

### 少人数の学習集団だからできる指導

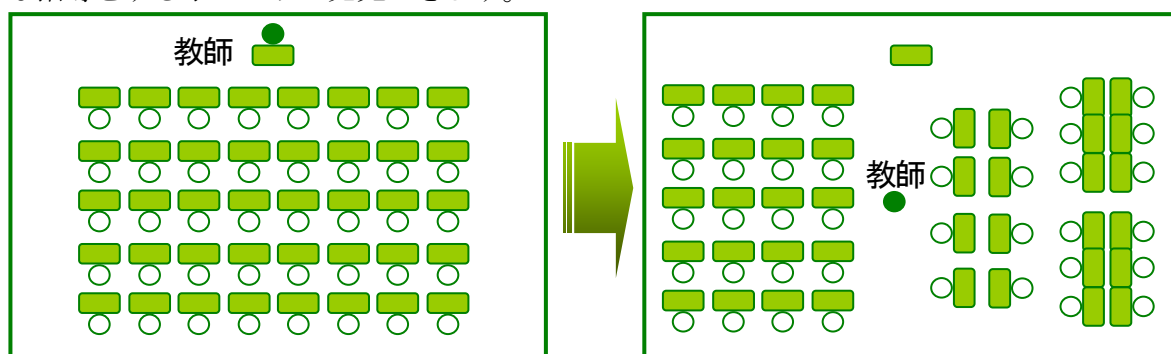
少人数指導が導入され、多くの学校からは「きめ細かい指導ができる。」「生徒の学習意欲が向上した。」と報告されています。これは、少人数の学習集団を編成して指導すること自体が生むよさと考えられます。しかし、指導方法が従来とあまり変わらないのであれば、このような結果が常に期待できるとは言えません。

「今日の授業は、本当に少人数の学習集団を編成したからこそできる指導になっていたか。」  
教師は、常に自分自身の指導方法を振り返り、指導方法の工夫改善を図る努力をしていくことが大切です。



### 多様な学習空間をつくることから始めよう

少人数指導の導入に当たっては、教師と生徒が多様な学習環境での授業に早く慣れることが大切です。そのために、通常の学習においても、下の図のように、黒板を背にした一斉指導の学習環境に、生徒の机の並び方を少し変えた学習空間をつくるだけで、個に応じた柔軟な指導をする手がかりが発見できます。



このように、机の配置が変わると、教師は自然に授業する位置を変えます。さらに、生徒も学習課題や興味・関心、学習方法の違いなどによって座る場所を変えていきます。

このような学習環境での授業に慣れてくると、生徒の理解や習熟の程度の違いにより教室内に幾つかの学習コーナーを設定し、生徒はそれぞれの場所に移動して学習を進めるといったこともできるようになってきます。

様々な学習空間をつくること自体が目的にならないように気を付ける必要がありますが、柔軟な学習指導を行うためには、少人数指導を実施しない教科においても積極的にこのような学習環境を取り入れていくことも効果的です。個に応じた指導のねらいは、「生徒一人一人の学習を成立させること」です。日頃から、このような学習環境で指導を進めることは、個に応じた指導を充実させていく第一歩となるのです。

## 2

### 発展的な学習、補充的な学習の基本的な考え方

発展的な学習、補充的な学習の基本的な考え方は次のとおりです。

- ① 得意な生徒には、更にその力を充実させるようにする。
- ② 苦手な生徒には、じっくりと学習に取り組めるようにする。

学習集団をどう編成し、どのような教材・教具、指導方法で指導するかは、各学校で生徒等の実態に応じて決定することになります。しかし、いずれの場合でも、個に応じた指導を充実させ、上の二つを実現することが大切です。このとき、生徒の個人差をできるだけ小さくし、生徒に応じた内容や速度での学習がしやすいという点から考えると、習熟度別学習集団編成が効果的です。

- 生徒の得意分野を伸ばしたり、発展的な学習をめざしたりする学習集団では
  - ・ 一ランク上の教材を用意し、生徒が授業中でも取り組めるようにしておく。
  - ・ 時には、授業中には解決できない発展課題を提示し、自主レポートの提出を呼びかける。 等
- 基礎・基本の徹底をめざす学習集団では
  - ・ 学習目標の実現に向けて、学習内容を精選する。
  - ・ 教材を工夫するとともに、作業的・体験的な学習を中心にする。
  - ・ 家庭学習用の補充課題を用意したり、放課後などに個別指導を行ったりする。 等なお、数学と理科については、平成14年8月に文部科学省から出された「個に応じた指導に関する指導資料」も参考にしてください。

## 3

### 評価の工夫

新教育課程の実施に伴い、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）が全面的に導入されました。目標に準拠した評価の導入は、少人数指導など学習集団の多様化への対応にも適しています。集団の外にある評価規準に照らして評価することにより、学習集団による評価の差をなくすことができます。しかし、これまで以上に評価の客観性が課題となっており、評価規準、評価方法の開発と共通化が求められています。

各学校や地域では、共同で評価規準を作成するとともに、評価方法や点数化の方法も共通理解し、評価の客観性を確保することが大切です。今後、実践を通して評価の工夫改善が進むと思われますが、評価の客観性の意味は「評価する人、される人、利用する人が納得できること」です。評価をする際には、次のような点に気を付ける必要があります。なお、評価については、第4章のQ7と併せて参考にしてください。

- 関心等の評価は教科の学習自体への関心等の評価であり、学習態度のみに偏らないようにすること。
- 評価規準の実現状況を測るための評価の基準を設定しておくこと。
- 学習した結果を評価するだけでなく、評価したことを指導に生かす工夫をすること。
- 観点別学習状況の評価を評定に総括するとき、安易に重み付けをしないこと。



## 第3章 少人数指導を効果的に進めるための指導体制

### 1 学校全体の共通理解と協力体制

現在のところ、英語、数学において少人数指導を導入している学校が多いようです。しかし、少人数指導が効果を発揮するのはこれらの教科だけではありません。少人数を生かす指導を行えば、すべての教科で大きな教育効果を得ることが期待できます。

各学校では生徒の学習状況を把握し、課題を洗い出して少人数指導を行う教科、学年、時数等を明確にすることが必要です(岡山県では現在のところ第1学年での実施を優先)。そして、年度当初の職員会議などで、少人数指導の時間を確保するために時間割の作成や変更について配慮することを共通理解します。

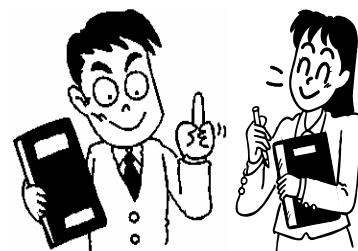
少人数指導を実施する教科は、教科会議で年間指導計画、教材・教具、指導方法等について相談するとともに、今後、これらの改善に向けて研究に取り組んでいくことを確認します。学校の課題解決のための少人数指導です。学校として大切にする姿勢を明確にしたいものです。なお、学校全体の協力体制については、第4章のQ4、5も参考にしてください。

### 2 教師の個性を生かす教科内連携

平成5年、個に応じた多様な教育の展開を目指すティーム・ティーチング(以下、TTという)の加配が始まりました。様々な取組で成果を上げてきましたが、その一つに教師間の協力体制が進んだことが挙げられます。これまで、教師は個々に学習指導を担当してきました。TTの導入により教師が知恵と持ち味を出し合って役割を分担し、協力して学習指導を行うことも普通になりました。同時に、教科内連携が進み、教師同士の協力する姿が生徒によい影響を及ぼすようになりました。

少人数指導ではTTの成果を生かし、更に教科内連携を進め、互いの個性を生かせるようにすることが期待されています。そのためには、次のような工夫が考えられます。

- 教材保管室や教材整理棚などを整備し、作成した教材・教具、ワークシート等を共通の財産とする。
- 評価規準表、基本的な評価テスト、演習プリント等を全員で作成し、検討して考え方を共通理解する。
- 教科会議を定期的実施する。
- 普段から互いの授業を自由に参観できるようにする。



©MPC

少人数指導は一つの学級を分割して指導するため、生徒や保護者が不安を持つことを心配する声があります。また、教師の指導力や経験の差への不満を心配する声もあります。このような不安や不満を生徒や保護者が持たないようにするためには、教科内連携を深め、個人ではなく組織として指導に当たり、生徒や保護者が教育効果を実感できるようにすることが最も大切なことです。なお、教科内連携については第4章のQ3、6も参考にしてください。

## 第4章 少人数指導実施上のQ&A

### Q1 効果的な学習集団を編成するためにはどうすればよいでしょうか？

学習の効果を上げるためには、学習集団を年間通して固定せず、単元や学習内容によって柔軟に編成することが大切です。それにより、生徒の学習意欲を高め、学習状況に応じた指導を行うことができます。

具体的には、次のような方法が考えられます。

- 単元の初めは機械的に分けた学習集団を編成して学習を進め、途中から生徒の理解や習熟の程度に応じて学習集団を編成する。
- 学習課題の内容や追究方法を複数用意し、生徒選択によって学習集団を編成する。外国語科を例にとると、基本的内容についての完全習得学習、興味・関心別のコース学習、コミュニケーション活動別のコース学習などを、単元で組み合わせて実施し、学習集団を編成することが考えられます。

また、習熟度別や課題別等の学習集団を編成する場合は、次のような点が大切です。

- 基礎コース・充実コース・発展コースなど、生徒にコースの内容がよく理解できるようにコース設定をする。
- 生徒が自分なりの見通しを持って、自分の意思でコースを選択し、学習集団に所属するように資料を用意したりオリエンテーションを実施したりする。

### Q2 生徒の興味・関心を高め、楽しく学習に取り組めるようにするには、どうすればよいでしょうか？

生徒は授業が分かり課題を解決できたとき、また、難しい課題に挑戦して解決したりやり遂げたりしたとき、成就感を感じ意欲を高めます。少人数指導では、生徒に目が届きやすいため、一人一人の学習状況に応じた指導を充実させたり、発言回数や作業時間を増加させ、活動的な授業を行ったりすることがより可能になります。このような学習を通じて、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすることが大切です。

習熟度別指導では、それぞれの学習集団に所属する生徒に応じた学習課題を設定し、適当な速度で学習を進めていくことができるため、生徒がより主体的に学習に取り組めます。また、学習集団を習熟度別に編成するだけでなく、生徒選択を前提に、課題別、追究方法別に編成し、コース別学習を行うことも大きな学習効果が期待できます。



©MPC

### Q3 授業の進捗や内容を調整しながら、教師がそれぞれの特長や個性を發揮して指導に当たれるようにするには、どうすればよいでしょうか？

複数の教師で同じ教材を担当する場合、学習集団によって進捗が大きく異なると、生徒や保護者が不安を持つ場合があります。これを避けるためには、担当教師間での連絡・調整が不可欠です。まず、年間指導計画の作成では、互いの意見を交換しながら大まかな流れを確認しておきます。各単元に入る前には、授業計画や教材、指導方法などを確認します。さらに、週末などに進捗の確認など細かい調整も必要です。

単元別、分野別に担当教師を決めて一定の期間で交代する指導方法をとれば、細かい調整は軽減されます。教師の特長や個性も發揮しやすくなり、学習効果も上がると思われれます。ただし、各単元のポイント、指導方法、評価など最低限の共通理解が必要なことは言うまでもありません。



©MPC

### Q4 少人数指導の時間を確保するためには、どうすればよいでしょうか？

まず、年度当初の職員会議で少人数指導についての理解を得て協力の依頼をしておきます。また、時間割はできるだけ少人数指導の担当者とその組合せが明確に分かるように工夫します。その上で、教師の出張や休暇には、可能な限り時間割を変更して対応するとともに、少人数指導以外の時間割変更の影響を最小限にします。

しかし、時間割変更が不可能で少人数指導ができない場合もあります。複数教科で機械的に分割した学習集団を編成している場合は、数学の少人数指導の時間を英語の少人数指導の時間と交換するなど、時間割変更の可能性を増やすことができます。また、普段から教科の全教師が全学級の学習にかかわるようにしておくこと、出張等の教師の代わりに他の教師が指導に入ることが容易になります。

### Q5 教材・教具と教室を確保するためには、どうすればよいでしょうか？

少人数指導では、理科の実験・観察のように、学習集団数分の教材・教具を準備することが必要になり、教師の負担が増える場合があります。担当教師が協力して準備することで、負担を軽減するとともに、より充実した教材・教具に高めていくことができます。負担は増えますが、教科の教師間の連携を深め、互いの力量を高め合える契機と考えたいものです。

時によると、高価等の理由で、どうしても必要な数の教具を準備できないことがあります。このときは、指導内容を二つ以上設定し、時間をずらして使用したり、順序

性が弱い内容を2時間連続で設定し、交換して使用したりすることが考えられます。

教室の確保については、空き教室を少人数指導専用の教室として整備している学校が多いようです。できるだけ普通教室に近い部屋を準備し、生徒の移動の手間を軽減するとともに、必要に応じて教師同士が情報交換できるようにします。

## Q6 教師の打合せ時間を確保するためには、どうすればよいでしょうか？

少人数指導では、授業内容や進度の調整のための打合せ時間が必要です。しかし、授業時間帯はもちろん放課後も会議や部活動があり、時間をとりにくのが現状です。打合せ時間を時間割に組み込むとともに、できるだけ空き時間をそろえるなどの工夫が考えられます。また、教科の教師同士の席をなるべく近くにし、日頃からコミュニケーションをとりやすくしておくことも大切です。簡単な打合せであれば、授業前後の移動時間も利用できます。また、連絡用のボードを設置し、互いにメモをし合ったり指導案やワークシートについて意見交換をし合ったりする方法も有効です。

## Q7 評価についての共通理解を図るためには、どうすればよいでしょうか？

平成14年度から目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）が導入されました。新学習指導要領においては、児童生徒の学習の習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導を一層重視しており、学習集団の編成も多様となることから、今まで以上に指導に生きる評価を行うことが求められています。各学校では評価規準や評価方法について話し合い、共通理解を図っていることと思います。単元の指導計画だけでなく評価計画を作成し、それを基に、教科会議等で共通理解を深めていくことが大切です。

評価について、特に共通理解を深めたいポイントは次のとおりです。

- 評価規準の具体的な内容
- 各観点の基本的な評価方法と評価場面
- 1時間に1～2観点ずつ単元を通して評価すること
- 観点別評価の単元、学期、学年末の総括の仕方
- 観点別評価の評定への総括の仕方

また、評価を生徒の学習に生かす視点や方法についても共通理解をしておき、成長の著しい生徒や成果が大きい生徒を褒めるなど生徒の成長を称揚する機会を設けたり、普段から生徒の成長を認めて積極的に声掛けをしたりすることも大切です。



©MPC



## Q8 学級担任をしている生徒のうち、教科の授業で指導しない生徒には、どのようなことに配慮すればよいでしょうか？

1日の中には、生徒とかかわりを持つことができる時間がたくさんあり、その時間を利用して十分に対応できます。例えば、朝の会や帰りの会とその前後、給食とその準備の時間、清掃時間、休憩時間、始業前や放課後などが考えられます。また、道徳、学級活動、総合的な学習の時間や学校行事なども考えられます。これらの機会を利用して、できるだけ多くの生徒に声を掛けるようにしたいものです。

特に気掛かりな生徒がいる場合、指導している教師と密に連絡を取る必要があります。授業中の良かったことを聞いておき、その生徒を直接褒めると効果があります。

どうしても授業中の様子を見る必要があるときは、可能な範囲で授業中に他の教室を見に行ったり、外国語科におけるALTとのTTのように、クラス全体で行う授業を設定したりすることも考えられます。また、教師が前後期や単元ごとに交替する方法もあります。



©MPC

## Q9 習熟度別指導を実施する場合、生徒へのガイダンスや助言はどのように行えばよいでしょうか？

生徒に優越感や劣等感を抱かせたり、差別意識を生じさせたりしないよう十分に配慮する必要があります。そのためにも、習熟度別指導のねらいや実施の方法について生徒に詳しく説明することが大切です。最初は学習集団選択の段階で戸惑ったり、自分に最も合う学習集団を選択できなかつたりするかもしれません。しかし、習熟度別の学習に慣れてくると自分と学習集団との適否を次第に把握できるようになり、やがて自分が選ぶべき学習集団を正しく判断できるようになります。

次の点については、特に十分に説明しておく必要があります。

### ○習熟度別指導の効果

生徒に応じた教材やスピードで、じっくり学習に取り組んだり発展的な学習に取り組んだりすることができ、各自の資質や能力を伸ばせることを伝えます。

### ○学習集団の決定方法

希望調査を実施し、生徒と保護者が相談して決めた学習集団での学習を原則とすることを伝えます。選択に当たっては、教師の助言を得られることや、教師が助言することがあることも伝えます。また、選択した学習集団が自分に合っていないときは、学習集団の変更など柔軟に対応できることを伝えます。

### ○学習目標・内容・方法等

各学習集団で行う学習の目標、内容と教材、学習の進め方などを明確に説明し、生徒が学習集団選択の参考にするとともに、学習の見通しを持てるようにします。また、すべての教材を生徒全員分用意し、授業中に余裕ができたときや家庭で、取り組むことができることを伝えます。



## Q10 習熟度別指導を実施する場合、保護者の理解を得るためにはどのようなことに留意すればよいでしょうか？

習熟度別指導のねらいは、生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を行うことによって基礎・基本を確実に定着させ、学習意欲を一層高めることにあります。しかし、生徒間に優劣の意識を生み出すのではと不安を抱く保護者もいると思います。そこで、学校では次のような方法で保護者の理解を求めることが考えられます。

### ○ 保護者への広報活動

校長や担当教師が、保護者懇談会や学校・学年通信などを利用して、習熟度別指導のねらいや学習内容、生徒へのアンケート結果等について丁寧に説明します。

### ○ 積極的な授業公開

生徒が積極的に発言したり友達と協力して学習したりする姿や、教師が丁寧に指導する様子を見てもらい、保護者に習熟度別指導の効果を実感してもらいます。

### ○ 生徒と保護者との話し合いによる意思決定

学習集団の編成は、生徒の希望を尊重して行われるべきですが、希望の意思を決定する際に、生徒が保護者と相談し、共に考えることのできる機会を持ちます。

その他、自分が所属していないコースの教材を入手できること、コース変更の機会があること等を説明しておきます。また、習熟度別指導の実施後に生徒や保護者にアンケートを行い、結果を今後の指導や保護者への広報活動に反映させることが大切です。

## Q11 習熟度別や興味・関心別に指導する場合、コースによる人数の偏りにはどのように対応すればよいでしょうか？

生徒の希望を基に学習集団を編成する場合、人数に偏りが出ることが考えられます。効果的に授業を進めるために、各コースの人数は大切な要素です。学習集団を編成する前のオリエンテーション等で少人数指導の目的を徹底し、目標を持ってコースを選択できるよう指導する必要があります。

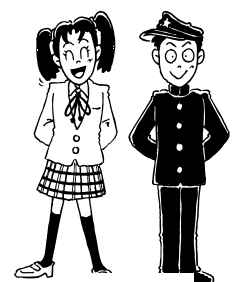
その上で、あまりにも偏りが大きい場合は次のような対応が考えられます。

### ○ 期間を設けてコース変更を受け付ける。

### ○ 適切なコース選択ができていない生徒には、個別に話をしてコース変更を促す。

### ○ 学習開始後しばらくは変更を受け付けたり個別に指導したりして変更を促す。

このような指導によっても偏りが解消されない場合は、生徒の希望を優先し、教師の指導方法や指導体制の工夫によって対応する柔軟さが必要です。



©MPC

## 第5章 少人数指導の実践事例(国語・数学・理科・外国語)

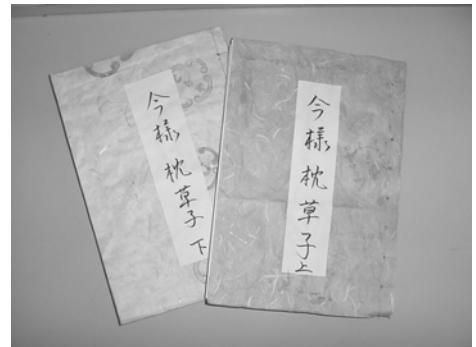
### 1

## 興味・関心別に分けて指導する国語科の事例 —第2学年「古典に親しむ」『平家物語』敦盛の最期・『枕草子』—

### 1 コース設定の意義

国語科では、教科の特性上、学習内容によっては、生徒が自分の学習状況を的確にとらえにくい場合があると思われる。また、より多様な意見や思いを交流できる学習集団が望ましい場合もある。このように、単元の内容によっては習熟度編成より、興味・関心に応じた編成を取り入れた方がより効果的と思われることがある。ここでは、第2学年で学習する『平家物語』(軍記物語)、『枕草子』(随筆)の2つの教材に焦点をあて、生徒の興味・関心に応じた学習集団の編成による学習を計画した。

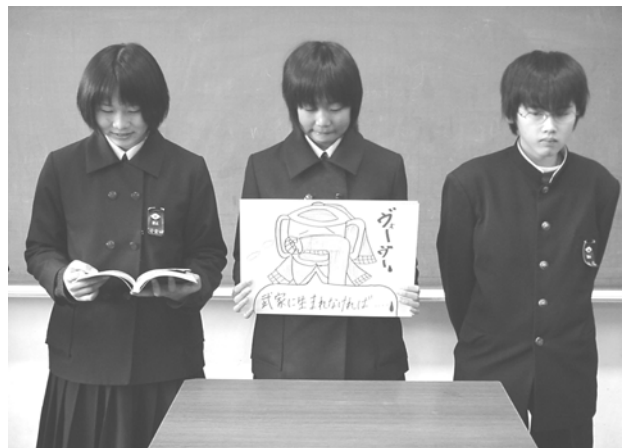
この単元学習を通して、まず古典学習の基礎・基本の定着を図りたい。その上で、群読を通して古文特有のリズム感や、声に出して読むことの楽しさを味わうコースと、古文による随筆の創作を通して感性を磨き、古文の美しさを味わうコースを設定し、生徒がどちらかを選択するよう計画した。それぞれ興味のある学習に取り組むことで、生徒は古典をより身近なものとして感じ、古典のすばらしさを味わうことができるものとする。



### 2 単元計画

(1) 〈共通〉古典学習への導入と読解・・・・・・・・・・ 3時間

- ① 古典ビデオ視聴(導入)
- ② 本文の音読と内容の読解
- ③ 仮名遣いと古語の意味の確認
- ④ 『平家物語』冒頭文と『枕草子』第一段の暗唱



(2) 興味・関心別に分けた発展学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

	①『平家物語』群読コース	②『枕草子』随筆集コース
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>『平家物語』「敦盛の最期」のシナリオを書いて、群読劇をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『枕草子』「春はあけぼの」「うつくしきもの」を参考に、「～は」「～のもの」という形を使って、現代感覚で随筆を書く。</li> </ul>
学習の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>群読のビデオを視聴するなどして、群読の仕方を知る。</li> <li>2つのグループに分けて、グループの中で役割分担を決める。</li> <li>シナリオ係はシナリオを書く。配役に従って群読の練習をする。発声練習をする。原文を暗唱する。</li> <li>分担して、背景画や小道具を作る。効果音や音楽も工夫する。</li> <li>発表会に向けて練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『枕草子』の現代語訳として有名な文章や現代の随筆の代表的な作品を紹介し、随筆の書き方を考えさせる。</li> <li>2つのグループに分けて、それぞれ随筆集の大まかな編集をする。頁数や装丁などを決める。</li> <li>各自執筆する。できた原稿を推敲し、それを古語に直す。</li> <li>筆で清書し、冊子を作る。</li> </ul>

(3) 〈共通〉発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

・どちらのコースも全体で発表会を開き、互いに学習内容を紹介し合う。

### 3 学習集団編成の方法(機械的な分割による学習集団から興味・関心による学習集団へ)

- ① 2学期当初に古典学習に関するアンケートを実施し、生徒の興味・関心の度合いを知る。
- ② 古典学習の内容は生徒の生活から遠いものになりかねない。そこで、少しでも身近なものとして感じさせ、かつ、楽しさを味わわせるために、学習集団を生徒の興味・関心に応じて、2つの集団に編成し直す。コースの内容については、授業を通して生徒に説明する。
- ③ 古典学習の導入及び読解が終わった段階で、『平家物語』群読コースと『枕草子』随筆集コースの2つから、希望により選択させる。
- ④ 古典学習の単元の中で、発展学習として興味・関心別学習集団でコース別に授業を展開することにより、古典学習に対する生徒の意欲がより高まるものと思われる。また、合同で発表会を開き、他のコースの生徒の発表を聞くことにより、古典学習への関心がより深まるものと思われる。

## 2

# 習熟度別に分けて指導する数学科の事例

## －第1学年「文字の式」－

### 1 学習集団編成の方法

- 1学期は、機械的に分割した学習集団で学習する。
  - ・ 担当教師同士が事前に打ち合わせを行い、学習の進度をそろえる。
  - ・ 教材、プリント、小テストなどを共同で作成し使用する。
  - ・ 問題練習では、生徒同士の教え合い学習を行う。理解の進まない生徒には教師が個別指導を行う。
- 2学期から、理解や習熟の程度に応じた学習集団で学習する。
  - ・ 各コース（基礎・応用）の学習の進め方を生徒に説明し、希望を取る。
  - ・ コースを決めかねている生徒には、2人の担当教師でアドバイスをする。
  - ・ 学習開始当初は、共通の内容で授業を行い、最後の10分程度を基礎コースは正負の数の計算、応用コースは正負の数の文章題や文字式の学習を復習として行う。
  - ・ 単元ごとに、担当教師と相談してコース変更ができることにする。
  - ・ 人数は、基礎コース（10人～15人）、応用コース（20人～25人）を目安にする。
  - ・ 単元終了後と定期テスト毎に自己評価とアンケートを行い、選んだコースが適切だったかどうかを考えさせ、コース変更の資料とさせる。

単元	正の数・負の数	文字の式	方程式	比例と反比例	平面図形	空間図形
定期考査	<中間> <期末>	<中間>	<期末>	<学年末>		
学習集団	均等に分けた学習集団	習熟度に応じた学習集団			均等に分けた学習集団 ⇒ 習熟度に応じた学習集団	
	*① *②	*③	*④	*⑤	*⑥	*⑦

\*①, ②は担当者と教室を交替する。

\*③～⑤は習熟度別コースの変更が可能

\*⑥, ⑦は用語の復習, 基本の作図, 計量の学習を習熟度別に行う。

### 2 各コースのねらい

#### <基礎コースのねらい>

- ◆ 基本的な問題に時間を掛ける。
  - ・ 文字式を書くときの約束が分かる。
  - ・ 一次式の計算の仕方が分かり、計算ができる。
  - ・ 図や表をつくり、数量を文字式で表すことができる。

#### <応用コースのねらい>

- ◆ 発展・応用問題に積極的に取り組む。
  - ・ 文字式を書くときの約束を活用できる。
  - ・ 一次式の計算の仕方を説明でき、計算が確実に速くできる。
  - ・ いろいろな数量を文字式で表すことができ、式から数量を読み取れる。

### 3 授業例

- 授業で使用するプリントは、基礎から応用までを配列したものとし、他のコースの生徒が取り組んでいる問題が分かるようにする。
- 基礎・基本が理解できた生徒は、いつでも応用コースの内容に取り組めるようにする。

＜基礎コースの内容＞

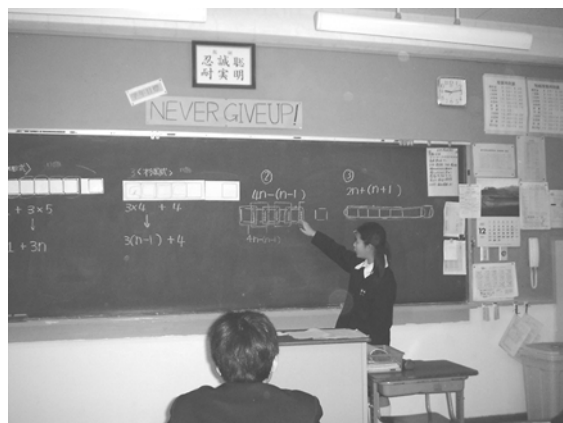
＜応用コースの内容＞

<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイルを使い計算の仕方を理解する。</li> <li>・正負の計算を復習しながら学習する。</li> <li>・文字式の計算の基本的な問題を、繰り返し練習する。</li> <li>・数量関係を図に表し文字式をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図を使って計算の仕方を見付け、説明する。</li> <li>・文字式の計算の基本的な問題だけでなく、係数が分数や小数の問題など応用的・発展的な問題に取り組む。</li> <li>・数量関係を式に表し、式の意味をよむ。</li> </ul>
---	---

- 応用コースにおける課題学習（基石の並べ方、マッチの本数について調べよう。）
  - ・順番に図を書いて調べる。
  - ・自分の考え方で式を作る。
  - ・自分の考え方を説明する。友達考え方を理解する。
  - ・いろいろな考え方で式をつくる。



(写真1) 基礎コース



(写真2) 応用コース

### 4 留意事項

- 初めのうちは、選んだコースが自分に適していなかった生徒も、次第に自分に適したコースを選べるようになってくる。基礎コースから応用コースへのコース変更等について、生徒へのアドバイスの仕方を担当教師同士で相談しておく。
- 基礎コースは、基礎・基本の確実な定着のための指導や、生徒一人一人に応じた指導について工夫しておく。
- 応用コースは、応用・発展的な課題の開発、課題提示の仕方と学習の進め方、生徒同士の教え合い学習の進め方などについて工夫しておく。
- 生徒が「できた」「分かった」ときの教師からの言葉掛けなど、生徒の自信につながるアドバイスの仕方についても考えることが大切である。
- 基礎コースは、学習習慣が十分身に付いていなかったり学習の仕方が分かっていなかったりする生徒も多い。これらについて相談する時間の確保も必要である。



#### 1 学習集団編成の方法

- ① 生徒に機械的に分割した学習集団による学習と興味・関心別コース学習の違いを説明する。また、保護者に学年通信で学習集団編成の方法やコースの学習内容について説明する。
- ② 「式を表す」と「グラフをかく」ことのどちらに興味があるかについて、生徒にアンケートをとり、それを基に2つのグループに分ける。

#### 2 興味・関心別コース学習のねらい

- 生徒の興味・関心に応じて、「式を表す」学習と「グラフをかく」学習に重点的に取り組ませることで、「比例と反比例」についての学習の理解を確かなものにする。
- 生徒の興味・関心に応じて、発展的な学習に取り組むことができるようにする。

#### 3 授業例

- 「単元のまとめ」の2時間を興味・関心別コース学習とし、他の時間は、機械的に分割した学習集団で、同じ学習内容を指導する。
- ワークシートを2種類作成し、基本的な問題は同じものにした上で、「式を表す」コースのワークシートには、式を求める問題を多くし、難易度の高い問題も入れる。逆に「グラフをかく」コースのワークシートには、グラフの作成問題を増やし、難易度を高くする。
- 2種類のワークシートは、両方のコースの生徒に配布する。

<単元計画（※が興味・関心別コース学習）>

1 節 比例		2 反比例のグラフ	1 時間
1 比例する量	4 時間	3 節 比例と反比例の利用	
2 座標	1 時間	1 比例と反比例	1 時間
3 比例のグラフ	2 時間	2 比例の利用	1 時間
2 節 反比例		3 反比例の利用	1 時間
1 反比例する量	2 時間	※ 単元のまとめ	2 時間

#### 4 留意事項

- 興味・関心別コース学習に適する学習内容と学習方法について、教師が学習のねらいを踏まえてよく考えておく必要がある。



## 4

# 習熟度別に分けて指導する理科の事例

## －第1学年「身のまわりの物質」－

### 1 学習集団編成の方法

- ① 実験・観察を行う時間のみ，習熟度別の学習集団で学習する。普段は機械的に分割した学習集団で学習する。
- ② 基本・発展それぞれのコースの学習の進め方を生徒や保護者に説明する。生徒にこれまでの実験・観察について自己評価を行わせ，それを参考に，基本コースと発展コースの2つのコースから選択させる。
- ③ 生徒がコースの変更を希望する場合にはできるだけ弾力的に対応する。

### 2 各コースのねらい

- 基本(ゆっくり)コース…教科書の実験・観察を幾つかの班で分担して行う。基礎的な操作や技能を重視して指導する。余裕があれば，できるだけすべての実験・観察を行えるようにする。
- 発展(いろいろ)コース…教科書の実験・観察を一つの班で全部行う。余裕がある場合は，実験計画の立案や発展的な実験・観察を取り入れる。  
※ 発展コースで行った発展的な実験・観察は，次時に基本コースの生徒にも説明する。



### 3 授業例

#### 実験 いろいろな物質の性質を調べよう

食塩・砂糖・PET・アルミニウム・スチールウール・ポリエチレン・ガラス・紙について，「燃やした時に二酸化炭素が発生するかどうか」及び「電気が通るかどうか」を調べる。

基本(ゆっくり)コース…上記の8種類の物質を，各班2種類ずつ選び(全部で4班)，分担して実験を行い，基本コース全体で一つの実験を完成させる。余裕がある班は，より多くの物質による実験を行う。

発展(いろいろ)コース…上記の8種類以外の物質を生徒が用意し，より多様な物質の性質を調べる。実験の結果の記録も，基本コースより更に詳しく記録を取り，より内容を深める指導につなげる。

### 4 留意事項

- 教師が生徒のニーズをしっかりと把握することにより，個に応じた指導の効果を高めることが大切である。
- この事例のほか，興味・関心に応じた少人数指導の工夫も考えられる。

# 5

## 習熟度別に分けて指導する外国語科の事例

### —第2学年「未来を表す表現 be going to～」—

#### 1 はじめに

学習指導要領では、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことが強調されている。また、英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、コミュニケーションの手段として使用する経験を積み重ねる必要性が重視されている。その際、実際に英語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うコミュニケーションを図る活動を行うとともに、言語材料についての理解や練習を行う活動とのバランスに配慮して指導することが求められている。

ここでは、第2学年において、単元の前半（第一次：5時間）では機械的に分割した学習集団に分かれて学習を行った後、診断テストを行うとともに、後半（第二次：2時間）では理解や習熟の程度に応じた学習集団による基礎と発展のコース別学習を行い、学習の定着と個性の伸長を図る少人数指導の実践例を紹介する。

#### 2 習熟度別の学習集団の編成

##### (1) 診断テストによる理解度の確認

- ・ 単元の第一次の学習が終了した後、学習の理解を測る診断テストを行う。
- ・ テストの結果を生徒に知らせ、自分の理解度を確認させる。

##### (2) コースの選択

- ・ 生徒に、Happyコース（基礎）とSmileコース（発展）の学習内容や学習方法について説明し、2つのコースから選択させる。
- ・ 既習事項をしっかりと定着させることの重要性を説明し、自分に合ったコースを選択するように伝える。
- ・ 適切なコース選択ができていない生徒には、個別に話をしてコース変更を促す。

#### 3 コースの概要

##### (1) Happyコース（基礎）

- ・ 単元の言語材料について理解や練習のための活動を重点的に行う。
- ・ 言語活動では、既習の単語を使用する。
- ・ ゲームは、ビンゴ、カード取り、インタビューなど、ルールが理解しやすいものを行う。
- ・ 聞くことでは、話す速さが少し遅い英語を聞いたり、必要に応じて繰り返して聞いたりする。
- ・ 話すことでは、単元の内容について英問英答をしたり、インタビューをしたり、対話練習をしたりする。
- ・ 読むことでは、単語の発音練習を丁寧に行い、本文を確実に音読できるまで繰り返し練習する。
- ・ 書くことでは、単元の文型の理解に重点を置くとともに、短い文で自己表現する。

##### (2) Smileコース（発展）

- ・ 単元の言語材料だけでなく、既習の言語材料も用いて、互いの気持ちや考えを伝え合うコミュニケーションを図る活動を積極的に行う。
- ・ 言語活動では、既習の単語だけでなく、新出単語も使用する。
- ・ ゲームは、できるだけ自分の表現で行う活動に取り組む。
- ・ 聞くことでは、自然な速さの英語を聞き、大まかな意味が理解できるようにする。
- ・ 話すことでは、実際の場面設定をして対話をしたり、テーマについてスピーチをしたりする。
- ・ 読むことでは、自然な速さで音読したり、題材の大意を把握したりする。
- ・ 書くことでは、身近な事柄について自己表現したり、ALTの書いた英文に対して英語で返事を書いたりする。

#### 4 指導の実際

##### (1) 単元目標

- ・ 間違いを恐れず英語で積極的に話す。

- ・ be ~ing , be going to ~, will の文の意味・構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用することができる。
- ・ 場面や相手に応じて表現を選択して、話したり応答したりすることができる。

(2) 展開 (第二次の第1時) (※ 両コースともJTEとALTとのTTが可能である。)

H a p p y コース (基礎)	S m i l e コース (発展)
○ 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ be going to~を使った英文の意味が理解できる。</li> <li>・ be going to~を使って自分や相手の予定を言ったり、尋ねたりすることができる。</li> </ul>	○ 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ be going to~を使った英文の意味が理解できる。</li> <li>・ be going to ~を使って自分の予定を話したり、書いたりすることができる。</li> </ul>
主な学習活動	主な学習活動
1 単元で学習した基本文を使った対話を聞く。(ニンジンとタマネギが示されている) A : What are you doing ? B : I am going to cook salad. A : That's nice. 2 内容の理解と文型を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aは何をするつもりか。</li> <li>・ be going to~の意味は何か。</li> </ul> 3 カード取りゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4~5人のグループになり、教師が読んだ英文に合う絵カードを取るゲームをする。</li> <li>・ 取ったカードの中から各自3つ選んで、その絵を表す文を、be going to ~を使って表現し、グループで確認し合う。</li> </ul> 4 放課後の予定を尋ねるインタビューゲームをする。(モデル文が示されている) A : Excuse me. May I speak to you ? B : Sure. A : What are you going to do after school today ? B : I am going to read books at the library. A : Thank you. <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5人以上の人にインタビューする。</li> <li>・ インタビューした結果をワークシートにまとめる。</li> </ul> 5 基本文を復習し、まとめをする。	1 自然な速さで読まれる対話を聞く。 A : What are you doing? B : I am planning about my winter vacation. A : How long is your vacation ? B : Two weeks. I am going to visit Hawaii. A : Yoko and her family are going to visit there, too. B : That's nice. I can meet them there. 2 内容の理解と文型を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Bの冬休みはどれくらいか。</li> <li>・ Bは何をするつもりか。</li> <li>・ Bはそこで何ができるか。</li> </ul> 3 カード取りゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアになり、教師が読んだ英文になるように、単語カードを並べ替える。</li> <li>・ 並べ替えた英文をワークシートに記入する。</li> <li>・ 答え合わせをし、英文の内容を確認する。</li> </ul> 4 実際的な場面設定で対話をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「友達と電話で週末の予定について話す」という場面設定で、ペアで対話をする。</li> <li>・ 対話した内容を振り返り、ワークシートに記入する。</li> <li>・ ワークシートに記入した後、教師によるフィードバックを受ける。</li> </ul> 5 数組のペアが発表し、まとめをする。

## 5 留意事項

- どちらのコースにおいても、学習指導要領外国語科の目標である「言語・文化に対する理解」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」「実践的コミュニケーション能力の基礎」をめざした指導を行うことが大前提である。例えば、基礎コースにおいて、単語や重要文型など、言語知識の理解のみに重点を置くのではなく、「聞くこと」「話すこと」の能力育成のための言語活動に生徒を慣れ親しませるような指導も必要である。
- 発展コースでは、積極的に「実践的コミュニケーション能力」育成のための言語活動を取り入れたい。特に「聞くこと」「話すこと」の能力育成では、「初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解することができる」「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる」という目標をより高いレベルで実現できるような言語活動(意味内容のやりとりに焦点を置いたタスク活動等)を多用し、生徒に積極的に取り組ませることが必要である。

# 少人数指導研究委員会

## 中学校部会 委員一覽

	氏名	所属等	職名
顧問	山本博和	ノートルダム清心女子大学	助教授
委員	青田由利子	鴨方町立鴨方中学校	教諭
〃	有森寿典	邑久町立邑久中学校	教諭
〃	岡光昭	倉敷市立連島中学校	教諭
〃	片岡美江	岡山市立岡山中央中学校	教諭
〃	北川久美子	備前市立伊里中学校	教諭
〃	新免道明	勝央町立勝央中学校	教諭
〃	二階堂明子	笠岡市立笠岡西中学校	教諭
〃	林照雄	北房町立北房小学校	教諭
〃	金光一雄	県教育センター	指導主事
〃	上岡仁	倉敷教育事務所	指導主事

### 事務局

氏名	所属等	職名
板谷正夫	県教育庁指導課	課長
遠藤昌代	県教育庁指導課	総括指導主事
林直人	県教育庁指導課	課長補佐
國府島知子	県教育庁指導課	指導主事(主幹)
河合浩一	県教育庁指導課	指導主事



平成 15 年 3 月発行

## 少人数指導の手引き（中学校編）

編集・発行 岡山県教育庁指導課

〒700-8570 岡山市内山下 2 丁目 4 番 6 号

TEL (086) 226-7584 FAX (086) 224-3035

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/sido/sido.htm>

E-Mail [sido@pref.okayama.jp](mailto:sido@pref.okayama.jp)